

## PBRから見た日本株式市場

Raku  
Yomi

楽読(ラクヨミ)

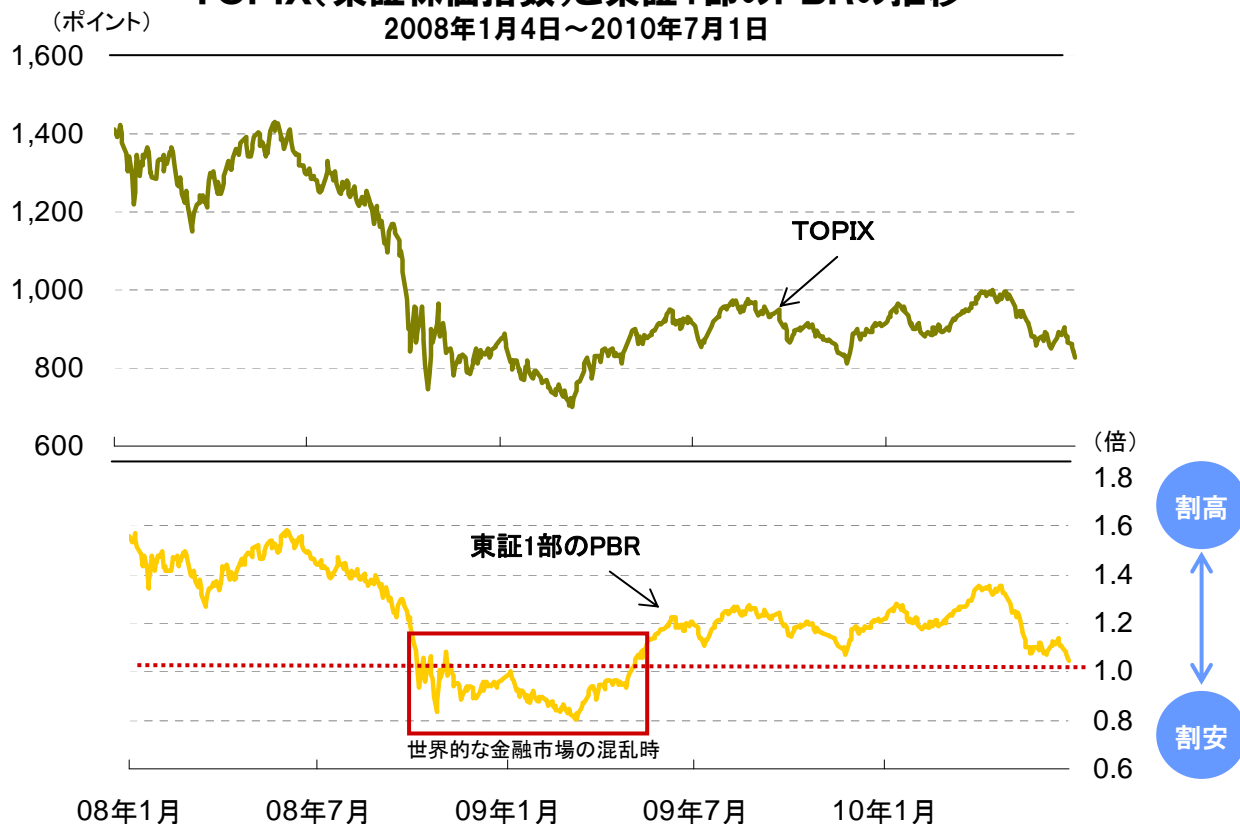
nikko am  
fund academy

日本株式市場が軟調に推移しています。この背景としては、欧州の根強い財政・金融不安に加え、足元で発表された米国や中国の経済指標が、市場の予想よりも低い内容となったことなどから、世界景気の腰折れが懸念されていることなどが挙げられます。特に、世界景気動向の影響を受けやすいとみられる輸出関連株の下落が目立っています。

最近の日本株式市場の下落によって、東証1部のPBR(株価純資産倍率)は、1.04倍(7月1日現在)と、理論上の解散価値まで低下しています。2008年秋以降の、世界的な金融市場の混乱時には、PBRが1倍を割れましたが、一般的には、PBRの1倍水準は、株価の下限であると考えられています。金融市場の混乱時と現在では、日本の企業業績見通しなどが大きく異なっていることを考えると、今後、世界景気の動向を注視する必要がありますが、株価はひとつの下値目処に近づきつつあると考えられるのではないのでしょうか。

PBRは、企業の持つ資産に注目した指標で、企業の1株当りの純資産に対し、株価が何倍まで買われているかを表したものです。企業の純資産は、「解散価値」を意味するといわれていることから、PBRが1倍に満たない状態は、「株価が会社の解散価値を下回っている」状態であり、理論上割安な水準にあるとみられています。

## TOPIX(東証株価指数)と東証1部のPBRの推移



※信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成  
 ※上記は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません

日興アセットマネジメント

■当資料は、日興アセットマネジメントが市況等についてお伝えすることを目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。■投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。